

道普請人ルワンダ事務所におけるインターンシップ報告

苫小牧高専 環境都市工学科5年 谷 和希

期間 (6月18日～9月28日)

1. はじめに

この度はインターンシップ生の募集をされていないにもかかわらず、ルワンダ事務所での活動に参加させていただき、誠にありがとうございました。

木村教授はじめ福林理事、また現地にて私の活動をサポートしていただきました、ルワンダ事務所の中島駐在員、その他道普請人スタッフの皆様には厚く御礼申し上げます。

2. 主な活動について

(1) サイト視察

下記の4郡における計8現場の視察を行いました。以下に詳細を示します。

- 施工管理業務 (ガケンケ郡、ルリンド郡、ニヤマシェケ郡、ルシジ郡)
- 雨季時の流量を計算し、必要に応じて排水管を設置。 (ガケンケ郡、ルリンド郡)
- 簡易レベルを用い勾配の測定。 (ガケンケ郡、ルシジ郡)



1. 田川専門家との流量の計算 (ガケンケ郡)



2. 簡易測量の様子 (ガケンケ郡)



3. 実施訓練の様子（ニャマシエケ郡、ルシジ郡）



4. 排水管設置の様子（ガケンケ郡、ルリンド郡）

(2) 報告書作成・会計作業等

実施訓練が終了次第、中島駐在員の指示のもと本部への報告書の作成を行いました。また、各ミーティングに参加し、現場で感じた問題点をスタッフと議論しました。

3. さいごに

私は高専を卒業後、建設会社に就職を希望していて、海外事業にも興味があり、就職後途上国にて土木事業に携わりたいと考えていました。その中で、就職前のこの時期に長期的に海外でインターンシップをしたいと考えていました。

以上のような経緯のもとルワンダ事務所でのインターンシップが始まりました。

今回私はインターンシップを通して、作業をしてくれる若者グループにいかにか効率的に働いてもらうか、という課題について長く考えていました。言葉だけでは通じない部分があったため、自分の身体を使って率先して作業しましたが、自分一人だけが動き回り、何のための訓練なのかを見失っている時間もありました。水を買ってきては若者グループに寄付をしたりもしました。

このようなことを通して、全体を俯瞰しながら時には若者と一緒に作業をすることが若者との良い関係に繋がることを理解しました。

また、これまで高専で土木に関する授業を受けてきましたが、まるで戦力にならないということも思い知らされました。言語よりも働くためには専門知識が大切ということに改めて気づかされました。

しかし、このインターンシップで土木という分野が一層好きになりました。構造物が出来てきて毎日現場の景色が変わっていく様子やスタッフや若者と協力して作業を進めていく面白さに気づきました。

先に記した通り、私は建設会社に就職して海外事業に参加することが目標です。今回のインターンシップで気づいた自らの至らない部分は多くありますが、この経験を生かして、今後一層土木技術者として精進していこうと思います。

最後になりますが、今回、長期にわたり貴重な経験をさせていただきました。インターンシップを受け入れていただいた道普請人関係者方々、特にルワンダ事務所を紹介していただきました福林理事、またルワンダ事務所でお世話になりました中島駐在員に心より感謝いたします。